

ふれあい“やましな”実行委員会主催

山科区民魅力探訪 ー山科本願寺と蓮如コースー

10月10日（月・祝）雨天12月3日（土）

案内

ふるさとの良さを活かしたまちづくりを進める会



絵図は（NHK「その時歴史が動いた 蓮如上人 乱世に祈りを！」より）

日時 平成28年（2016）10月10日（月・祝）10：30～15：30頃（雨天12月5日）

行き先 「山科本願寺と蓮如上人の遺跡を訪ねる」

コース 10:30京阪電車京津線四宮駅前→①若宮八幡宮→②南殿跡・光照寺→③蓮如上人御指図井→④12:00
西本願寺山科別院（西御坊（昼食・講演・トイレ有）13:30→⑤殉国碑→⑥西御坊前道標→⑦青少年
活動センター前道標→⑧真宗大谷派山科別院長福寺（東御坊・トイレ有）→⑨蓮如上人銅像跡
→⑩蓮如上人御廟所（見学）→⑪山科中央公園の本願寺遺跡（土塁等）（トイレ有）→⑫本願寺御
本寺跡遺跡（国史跡）→⑬西宗寺→⑭国道一号線山科西野バス停前 15:30解散

持ち物 飲物・タオル・帽子・筆記用具・天候により雨具

案内 ふるさとの良さを活かしたまちづくりを進める会メンバー



●若宮八幡宮（音羽）

もともとその地には二基の古墳があったと推定されています。社伝では、662～669年頃。天智天皇が志賀の都から山科郷へ巡幸を行った時、音羽の地に八幡神を勧請したのが始まりと伝えられています。

当初は仁徳天皇・応神天皇・神功皇后の三柱を祀っていましたが、末社の出雲社を廃する際に、祭神である素盞鳴命を本社に合祀しました。その後、大津皇子の御子である栗津王の末裔とされる栗津氏が、この地を拓いて居住するようになり、祖である天武天皇が併せて祀られました。

平安時代には神仏習合による寺院（観音寺）が境内に設けられ、神宮寺として観音寺の僧侶が奉仕し、十一面千手観音・不動明王・毘沙門天が勧請されました。その後、十一面千手観音は廃仏毀釈により明治5年（1872）に光照寺へ預けられたが、昭和42年（1967）に観音堂を再建して再び祀られています。往古より五斗の神供米を朝廷より受けていましたが、明治3年（1870）より廃止になりました。明治40年（1907）、神饌幣帛料供進神社に指定されます。

本殿の造営は、寛治元年（1087・堀川天皇）、応永3年（1396：後小松天皇）、寛文7年（1667）、宝暦2年（1752）、明治19年（1886）、と昭和になってから3度行われたと記録されています。

境内には大津皇子と栗津王の墓とされる2基の供養塔があり、室町初期の宝篋印塔きょうが現存します。



大津皇子は天武天皇の第3皇子で、母の大田皇女は天智天皇の皇女。『懷風藻』によると「状貌魁梧、器宇峻遠、幼年にして学を好み、博覧にしてよく文を属す。壮なるにおよびて武を愛し、多力にしてよく剣を撃つ。性すこぶる放蕩にして、法度に拘わらず、節を降して士を礼す。これによりて人多く付託す」とあり、多くの人々の信望を集めていました。朱鳥元年、天武天皇が崩御すると、川島皇子の密告により謀反が疑われ、妻である山辺皇女とともに自害させられました。



栗津王は大津皇子と山辺皇女の第二子。大津皇子死後、栗津王はこの地に移り住み、土地の発展に力を注ぎました。音羽地域には栗津姓が多く、その末裔たちにより八幡宮境内の宝篋印塔が建てられたと伝わっています。

●山科本願寺南殿土塁跡

音羽伊勢宿町にある山科本願寺南殿土塁跡は、中世の山科本願寺における強固な守りを示すものとして貴重な史跡となっています。この地域の土塁跡は、山科本願寺をとりまく土塁の北東部にあたり、南殿を守る場所にもあたります。この場所には、石碑と史跡であることの説明の看板が建てられています。



●南殿光照寺

『光照寺文書』には「蓮如上人延徳元年（1489）御歳七十五にならせられ、実如上人三十二歳にならせられ、即御住職あそばされ、蓮如上人延徳元年の春のころ野村（現東野・西野）の東辺御順見あらせられ、即ち八丁四方御領地の内、音羽村は御本堂より三丁ほど東なり。ここに中川勘解由・栗津左衛門尉元道とて（奈良の京より天子の御供申し奉りて来る筋目の郷土なり）其外野村の土橋駿河守・海老名五郎左衛門等へ仰せ出させられ、御隠居の御殿泉水築山土井を高く、堀を深くして一丁四方外講（構）二丁四方に御講あそばされ、其年の春より八月上旬までに御成就あらせられんとなり。其所は風景^{はなは}甚だよろしく、先東に音羽山・牛尾山（是山は京都清水の奥院法厳寺たる寺あり。田村（坂上田村麻呂）將軍の建立せられし寺なり）又是山について大宅山大宅村（是所は古へ山科大納言殿の御殿のありし所なり）又醍醐山（慈現大師の開き玉う所なり）東北に五輪山。三井寺山現前にあり。甚だ宜風景なりとて、御喜遊され、其年八月二十八日御日中后泉水の御殿へいらせられ、…」と記されています（参考：京都市『史料 京都の歴史⑩山科区』平凡社1988年p366）。

●蓮如上人「御指図井」

昔、音羽の里に、行基^{ぎようき}というお坊さんが諸国行脚^{あんぎや}の時に立ち寄られ、里の女の人に水を求められたのですが、その



女の人はお坊さんの身なりを見て、ばかにして水をさし上げなかったで、それ以後、この音羽の里では井戸水がでなくなったということです。その後、室町時代に蓮如上人^{れんによ}が「山科本願寺」を建て、この音羽に隠居所として「南殿」が設けられました。しかし、井戸を掘らせたのですが、当初は水がでませんでした。そこで、地元の人からこの伝説を聞いた蓮如上人は、弟子をつれて、この井戸の所まで来て、畳を敷かせて座り、自らの杖で指図したところを人々が掘ってみると、清水が湧き出たと言われています。これが今に残る「御指図の井戸」です。「それ以来、現在にいたるまでいかなるひでりが続いても、この井戸の涸れたことはありません。」（音羽川学区誕生十周年記念誌『音羽川』）と言われています。



●實如上人墓と證如上人墓（参考・ここには行きません）

實如は、長祿2年（1458）に生まれ、大永5年（1525）2月2日に没しています。室町時代中期から戦国時代にかけての浄土真宗の僧で、蓮如の第8子にあたり、蓮如を継いで本願寺第9世となりました。明応8年（1499）に蓮如が亡くなった後も、父の代に急激に拡大した教団の規模を維持する必要があり、管領細川政元との関係維持などに苦労したとされます。また本願寺の一族を一門衆（嫡男）と一家衆（次男以下）に分ける一門一家制を設けたり、蓮如の文書の中から80通を選んで5帖に編集し「御文」とよんで宗門信条の基本とするなどの策を講じました。



證如は、永正13年（1516）に生まれ、實如の跡を継ぎ、本願寺第10世となりました。蓮如の曾孫で、円如（父實如からの継職前に死去したため本願寺歴代に入らない：小山に墓がある）の子。大永5年（1525）、祖父實如の死去により、10歳で本願寺第10代門主となり、實如の弟で證如の母方の祖父である蓮淳の後見を受けます。享祿4年（1531）には本願寺教団内部で対立（後の山科本願寺焼討事件まで含めて「享祿・天文の乱」と呼ぶ）が起こりますが、證如はこれを抑えて法主の指導力強化に努めました。翌、天文元年（1532）には、管領細川晴元の要請を受けて門徒を動員し、三好元長を敗死に追いや

ったことがきっかけで、細川晴元はこれによってかえって本願寺の実力を恐れ、京都の日蓮宗教団や六角定頼と手を結んで、当時の本願寺の本拠地であった山科本願寺を攻撃し、これを焼き討ちにした（天文法華の乱）と言われています。證如は、天文23年（1554）に39歳の若さで死去し、後を12歳の長男の顕如が継いでいます。



●音羽川（山科川）

音羽川小学校の南側を流れる大きな川は、音羽川（現在は山科川）と呼ばれています。音羽川は、音羽山から谷沿いに沿って小山・音羽地域を流れ、山科川に合流する昔からの川です。音羽地域の人たちは、昔からこの川に沿って生活を始め、村ができたと言われています。昔の音羽地域は日常的な水不足で、音羽川の水を飲み水としていました。

音羽川の上流は、「牛尾山ハイキングコース」として有名です。小山地域から法巖寺（＝牛尾観音）までの音羽川沿いの道には、かえる岩・お経岩・音羽の滝・銚子ノ滝・蛇ヶ淵などとよばれる景色のよい所がたくさんあります。



●西本願寺山科別院・西御坊（浄土真宗本願寺派舞楽寺）

地元では「西別院」「西御坊」などと呼ばれていますが、正式には「浄土真宗本願寺派本願寺山科別院」と言います。天文元年（1532）に、山科本願寺が焼失した後、200年後の享保17年（1732）に、第15代住如上人が北山別院の旧堂をこの地に移築し、聖水山舞楽寺としました。さらに第17代法如上人の時代となつて、安永元年（1772）3月に現在の本堂が建立され、続いて天明元年（1782）の蓮如上人三百回忌に当たって、鐘楼・太鼓楼、接待所等を増築され、現在のお寺の原型が整備されたものです。また、中宗堂に安置される蓮如上人像は、上人自作の像として永く本願寺に伝えられています。



●殉国碑（西御坊門前・四ノ宮川西岸）

西御坊のちょうど入り口のところに、高さが約4m、幅が約1mの「殉国碑」があります。建立年は不明です。また、前の石碑には正面に「山階婦人会」横に「鏡山」「音羽」とあり、別の石碑には「愛国婦人会」の名が見られます。土台の石は、戦時中に山階小学校内にあり、上には「忠魂

碑」が建てられていました。戦後、土台の石をここに移し、忠魂碑の代わりに殉国碑を建立したものとされます。

「殉国」というのは、国家のために身命を捨てて尽くすことの意味です。おそらく先の戦争で亡くなった人の供養を込めて建立されたものでしょう。先の「山階婦人会」「愛国婦人会」などは、戦時中の忠魂碑のものをそのまま持ってきたとされます。



●蓮如道道標（蓮如上人御塚道道標）

「蓮如上人御塚」とは、蓮如上人御廟所のことです。このような道標は、この御廟所に参詣する人たちの道案内となったものです。場所は、元々この地にあったのか、それとも移転されたものかはわかりません。「寛保3年（1743）年9月建立」と記されていて、建立者は「江州大津 西念寺」とあります。



●蓮如上人南殿御旧地道標

東御坊の東門前の、山科青少年活動センターテニスコート角にあるこの道標は、この地からまっすぐ東に行き、南殿光照寺までの道を案内しています。この道は「両御坊道」とも呼ばれ、蓮如上人が自分の隠居所である南殿から、この地にあった山科本願寺まで通った道であると言われています。江戸時代は、逢坂山を越えて山科に入った旅人が、奈良街道からこの道を通して東西御坊に参詣し、西野道・渋谷街道を通して渋谷峠から京都に入るコースでもありました。

●東御坊（真宗大谷派山科別院長福寺）

享保17年（1732）に、本山十七世真如上人が当時東本願寺の境内にあった長福寺を、現在の場所に移築し創建したと言われています。本尊は阿弥陀如来立像で、本堂のそばには、蓮如上人の像が建立されています。長福寺の東側入口には「東御坊」と書かれた大きな石碑があり、その前



からまっすぐ東へ道が続き、「御坊道」と呼ばれ、南殿・光照寺を経て、奈良街道、牛尾山まで続いています。江戸時代は、現在の渋谷街道がなかったので、四ノ宮から音羽を経て、この道を通り山科別院にお詣りし、渋谷越えをして京に入る人も多かったのです。このお寺の正式名称は「東本願寺山科別院長福寺」と言いますが、地元では「東別院」「東御坊」などと呼ばれています。真宗大谷派に属し、東本願寺の山科別院です。毎年3月24・25日に蓮如上人御正當法要と、9月24・25日に親鸞聖人報恩講が厳修されます。



●蓮如上人銅像跡

東西両別院の中間に、蓮如上人立像跡があります。昭和9年（1934）に建立されたこの立像も戦時中の昭和19年（1944）に「供出」のためになくなってしまい、今は台座のみが露呈しています。この立像は、昭和9年（1934）9月の完成で、石の台座の上に全体を合わせると高さが10メートルにもなる大きな像が建てられていたといわれています。東御坊・西御坊と御廟所の関係でこの地点に設けられました。建立者は江戸時代の由比正雪の子孫（卯三郎氏）といわれ、黒岩淡哉作、高村光雲が顧問でした。いまは土台の石塔北裏に刻銘されたプレートがわずかに往時を偲ばせています。

像が供出された当時、地元の人たちは「蓮如さんも戦争に行ってしまったのはった」とたいへん残念がったと言います。



●蓮如上人御廟所（見学）

山階小学校の北側に、蓮如上人の御廟所があります。門と築地に囲まれた木立の中にひっそりとたたずんでいます。蓮如は本願寺八代として各地で活発な布教活動を行い、衰微していた本願寺を再興し、巨大教団発展への基礎を築いたあと、明応8年（1499）3月25日、山科で亡くなりました。亡くなった地は、西野・西宗寺であったという説と、音羽・光照寺であったという説がありますが、いずれにせよ山科本願寺の中で亡くなったことは間違いありません。翌3月26日、蓮如上人の遺体は火葬にされ、御廟所中央の塚に葬られたと言います。その後、江戸時代中期

にはこの御廟所を挟んで東・西本願寺の山科別院が建立されたのです。

●戦時中の空襲サイレン（山階小学校校舎屋上）（参考）



山科一帯に「空襲警報」を知らせるために、そのサイレンが山階校の北校舎屋上に設置されていました。このサイレンは、一部形を変えてはいるものの、現在も当初の位置に置かれています。貴重な戦争の遺品であると言えるでしょう。

サイレンが山階校の校舎屋上に設置されたのは、一つは場所が山科区の中央部であったことと、校舎が当時にはめずらしい鉄筋の三階建であったことによるものと思われます。このサイレンは、蓮如上人御廟所からも見られます。



●地名「西野」について（参考）

西野は山科のほぼ中央部に位置し、東野と並んで山科では最も古くから栄えた地域の一つです。山科は古くは「山階（科）野」と呼ばれたように、原野が多かったのですが、孝徳天皇の白雉年間（650～654年）頃、初めて戸籍がつくられ班田が行われたことに伴って、この地域が開墾され、今の東野と西野を合わせて「野村」と名付けられました。この「野」は「山階（科）野」「原野」から由来するものと考えられます。

中世には「山科七郷」の一つで、領主は醍醐三宝院（山科家礼記）でした。三ノ宮（現東野）がその中心で、山科七郷の集まりもそこで頻繁に持たれていたと言います。文明10年（1487）春に、浄土真宗本願寺派の八世「蓮如」がこの地に「小庵」を建立し、これが後に「山科本願寺」と言われる宗教都市山科の中核となりました。

当時「寺内」と呼ばれた地域は、南北900m、東西500mであり、面積はおおよそ甲子園球場の20倍近くになります。現在の西野山階町あたりでは鍛冶場や堀跡が発見され、遺構なども点在しています。「寺内」は8町をもって構成され、職人や商人など、一説では約3万人が住んでいたとも言われ、「洛中とそう異ならない」と言われるほどの繁栄を見せていました。

江戸時代に入り、16世紀後半には「野村」は「東野」

と「西野」に分かれました。文献には、弘治2年（1556）には「東野」（厳助大僧正記）、慶長17年（1612）には「西野」の名が初めて見えます。^{きんり}禁裏御料、つまり朝廷の所有地でした。



●京都市立山階小学校（参考）

山階小学校は、明治5年（1872）5月6日、山科に初めての学校として山科西本願寺山科別院内を借りて「東野校」として開校しました。明治13年（1880）に現在地に移り、山階小学校と命名されました。

山科の学校は、明治初期には山階小学校・勧修小学校の2校で、戦後でもしばらくは、山科中学校と山階・鏡山・音羽・勧修の「1中学4小学校」でしたが、現在では小学校13校、中学校6校。総合支援学校を合わせ京都市立は20校となっています（大学・高校・私立学校等を除く）。



●山科中央公園

大正6年（1917）にこの地に誕生した鐘淵紡績（鐘紡）山科工場は、山科最大の工場でしたが昭和45年（1970）に滋賀県の長浜に移転しました。

そしてその跡地には、京都市住宅供給公社による分譲団地（山科団地）が建設され、中央に山科中央公園も建設されました。この中央公園では、毎年、「山科区民まつり」を始めとした各種行事が行われています。



●山科本願寺土塁跡

山科本願寺は、室町時代にあった浄土真宗の寺院で、本願寺8世の蓮如により、文明15年8月22日（西暦1483年9月23日）に建立されに建立されたものです。周囲には堀と土塁を築いて、寺内町を形成していましたが、天文元年8月24日（西暦1532年9月23日）、六角氏と法華宗徒により焼き討ちされ、焼失してしまいました。

現在、跡地には本願寺派別院（山科別院）と真宗大谷派別院（長福寺）が建っており、南殿跡が音羽・光照寺に、土塁跡が山科中央公園に残っています。南殿跡と土塁跡は国の史跡に指定されています。



●山科本願寺遺跡・発掘現場跡（山科区西野山階町）

平成24年（2012）9月6日、京都市埋蔵文化財研究所は、山科本願寺跡の発掘調査で、室町期の石風呂跡が見つかった、と発表しました。サウナのような構造で、浄土真宗中興の祖・蓮如が入った可能性もある、といいます。その発掘現場跡です。

石風呂は地面から約1メートル掘り下げた半地下構造で、南北6メートル、東西3メートル以上の規模で、内部を石組みで南北2室に仕切り、南側は粘土と石の天井で覆っていたとみられます。この南側の部屋で火をたき、その後に水をまいて、蒸気で体を温める仕組みで、北側の部屋では、入浴後に汗を流すなどしていたとみられます。

また、石風呂の北には直径3メートルの井戸、東にはかまど跡もあり、汗を流す湯を沸かしていたと考えられます。

市埋文研によると、遺構は山科本願寺の御影（ごえい）堂や阿弥陀（あみだ）堂の推定地に近接する。宗主（門主）一族のための石風呂だったとみられるとしています。平成27年（2015）12月に「国史跡」となっています。

（写真 は 2012.9.6 京都新聞朝刊より）



●西野 奥田甲子男宅 長屋門・葎葎屋根（参考）

西野山階町の奥田甲子男氏宅の入口の門は、^{ながやもん}長屋門（写真）と言います。長屋門というのは、江戸時代の武家屋敷でみられた門の形式で、門の両側が長屋となっており、そこに家臣や下男を住ませたものです。地方の富裕な農家にもみられたと言います。この奥田家にある長屋門が、元はこの地にはなく、どこからか移転してきたもので、下（一階）と上（二階）には通し部屋があるということでした。

奥田甲子男氏宅の長屋門をくぐって中に入ると、きれいなお庭と母屋の^{よしぐき}葎葎屋根が見事なコントラストを示して美しい情景が目に入ってきます。母屋は、305年前に建てられたもので、長年、^{かやぶき}茅葎屋根だったそうですが、現在のものは平成12年（2000）に葎き替えたということです。また、家についても「あの阪神大地震でも、大きく揺れなかった。昔の家は地震に強い構造になっていて、木組みもあの五重塔のように揺れを吸収する造りになっているのだろう」というお話でした。



●西野・西宗寺

西野広見町にある浄土真宗本願寺派放鷲山西宗寺は、文明13年（1481）10月18日の建立と言われ、ご本尊は阿弥陀如来で、蓮如上人直筆の宗祖見真大師の書像や、蓮如上人自作の木像が安置してあります。建立のいわれは、次のようです。山科本願寺建立の際に、このお寺のご先祖にあたる海老名遠江守五郎左衛門尉信忠という人が、蓮如上人に深く帰依して、所領の地や屋敷を寄附し、その弟子となって浄乗と名乗りました。そして、文明13年（1481）に蓮如上人は、本願寺の一部である南殿を浄乗に与えて、西宗寺とし、浄乗がその開祖となったものです。

西宗寺が放鷲山（ほうおうざん）と呼ばれるのは、蓮如上人の言葉『鷲（うぐいす）でさえ、法を聞け（ホーホケキョ）と鳴く』から来ています。蓮如上人が病気になって、この地に来た際に言われた言葉とされています。その際、浄乗の子祐信は、つきっきりで看病をしたために、蓮如上人自画の影像を与えられました。これは「蓮如上人形見の御影」と言われています。

その後、山科本願寺が焼き討ちに遭って焼失した際に、祐信はこの御影を一時地面に埋めて隠し、夜半に掘り出して宇治田原に逃れ、その後証如上人の後を追って大阪に無事届けたと言います。

西宗寺にある戦争慰霊碑は、昭和56年（1981）9月に建立されたもので、地元の要望で寺が場所を提供して建立されたということです。

慰霊碑建立趣意書

昭和十二年支那事変が勃発するや、北支、中支各戦線に転戦し不朽の戦績を残し引続き大東亜戦争の戦局いよいよ熾烈を極めるにしたがい、陸海諸部隊に動員され各戦に苦闘された諸士は、祖国を愛し祖国を護り、進んで国難に殉じられました。そして遂に郷里に帰ることもなく、戦地の土となりました。その遺勲を顕彰して、その功を讃える為、生還者一同が相語らい尊い犠牲を永遠に追弔する為、ここに記念碑を建立しその名を後世に伝え。御冥福を祈ると共に、再び戦争を繰返さぬ様に、世界に平和日本を誓うものであります。



昭和五十六年九月吉日建之 大東亜戦争生還者四十名



●「西野道道標」について（参考）

渋谷街道と西野道との交差点南東角に道標があり、「寛政九丁巳歳二月二十五日再建、右蓮如上人御往生旧地これより二丁」とかかれて、蓮如御廟所への案内となっています。また「西宗寺道」と書かれていることから、「西野道」を当時は「西宗寺道」と呼んでいたのかも知れません。このため通常は「西野道道標」と称していますが、「西宗寺道道標」と称する場合もあります。西宗寺は、ここより少し南側にあるお寺で、蓮如に山科本願寺の土地を寄進した海老名五郎左衛門が創建したと伝えられている浄土真宗本願寺派のお寺です。ここから西野道に沿って南側、国道一号線（五条通り）までの辺りは、西宗寺を中心として古くから開けていた西野地域の中心でした。

【山科本願寺関係略年表】（以下の資料は岡村喜史先生（龍谷大学・本願寺史研究所）の「山科本願寺の歴史」2012.11.25 レジメを参考にさせていただいています。）

年代	西暦	関連事項
応永 22 年	1 4 1 5	2 月 2 5 日、蓮如、京都東山の大谷本願寺において誕生する。
永享 3 年	1 4 3 1	夏、青蓮院で剃髪し、蓮如・兼寿と号する。
宝徳 元年	1 4 4 9	4 月、足利義政将軍となる。
長祿 元年	1 4 5 7	6 月 1 8 日、本願寺 7 代存如没（62）。蓮如、本願寺を継職する。
寛正 元年	1 4 6 0	1 月、蓮如、近江の妙道・道乗・性妙等に金泥十字名号を授ける。
2 年	1 4 6 1	3 月、蓮如、最初の「御文」を作る。 ○この年、寛正の大飢饉。
6 年	1 4 6 5	1 月 9 日、比叡山衆徒、東山の大谷本願寺を破却する。蓮如大谷を退出する。 3 月 2 1 日、比叡山衆徒、再度破却する。
応仁 元年	1 4 6 7	1 月、応仁の乱起こる。 5 月～9 月、蓮如、三河から関東へ赴く。
文明 元年	1 4 6 9	春、大津南別所に坊舎を建て顕証寺と称し、親鸞木像を移す。
3 年	1 4 7 1	7 月 2 7 日、蓮如、越前吉崎に坊舎建立。
文明 7 年	1 4 7 5	8 月 2 1 日、蓮如、吉崎を退出し、河内出口へ赴く。
8 年	1 4 7 6	○この年、堺に信証院を建立する。
1 0 年	1 4 7 8	1 月、蓮如、山科へ赴き、本願寺建立工事をはじめめる。
1 1 年	1 4 7 9	8 月、山科の庭園・寝殿成る。
1 2 年	1 4 8 0	1 月、山科に三帖敷の小御堂を造る。 3 月 2 8 日、御影堂上棟。 1 0 月 1 4 日、日野富子、山科に来訪。 1 1 月、親鸞の木像を大津より山科へ移し、報恩講を修する。
1 3 年	1 4 8 1	2 月 4 日、阿弥陀堂造営はじまる。

		6月、佛光寺經豪婦参し、山科に興正寺を建立する。
延徳 元年	1 4 8 9	8月28日、蓮如、寺務を実如に譲り山科の南殿に隠居する。
明応 5年	1 4 9 6	10月8日、蓮如、大坂坊の建立にかかる。
6年	1 4 9 7	11月、大坂坊完成。大坂で報恩講を修する。
8年	1 4 9 9	2月18日、蓮如、大坂より山科に移る（20日到着）。 2月21日、蓮如、御影堂に参詣する。 2月25日、蓮如、御堂周辺の土居を見る。 3月25日、蓮如没（85）。26日、火葬に付す。
永正 7年	1 5 1 0	○この年、山科寺内の日没の鐘を八時に打つことを定める。
10年	1 5 1 3	○この年、山科寺内の時の太鼓を暁七時、日没八時に打つことを定める。
13年	1 5 1 6	4月、山科南殿の庭に持仏堂を建てる。
大永 5年	1 5 2 5	2月2日、本願寺9代実如没（68）。孫の証如が本願寺を継職する。
天文 元年	1 5 3 2	8月24日、山科本願寺、六角定頼・法華宗徒等によって焼かれる。
天正14年	1 5 8 6	12月10日、豊臣秀吉、本願寺に山科の旧地を寄進する。
享保17年	1 7 3 2	○この年、北山御坊の旧堂を山科に移して西本願寺の御坊として再興する。

【本願寺山科別院（西御坊）の由来】

（以下の資料は本願寺山科別院パンフレットを参考にさせていただきます）

本願寺中興の祖と仰がれる蓮如上人ゆかりの聖地が、この山科別院であります。

本願寺第8代宗主蓮如上人の時、1465（寛正6）年、京都東山・大谷本願寺が比叡山の僧徒により破却され、ご開山親鸞聖人のご真影は天津・近松御坊にご避難されていました。上人64歳の時、1478（文明10）年江洲・金森道西の願いにより、山科郷野村西中路に坊舎を建てられました。これが山科本願寺のはじまりです。

1480（文明12）年8月に御影堂が新築され、同年11月には天津よりご真影をお移しになり、翌1481（文明13年）6月には阿弥陀堂が完成、ここに松林山山科本願寺と号す本山本願寺が、歴史上にその姿を現したのです。山科本願寺は一説によれば、御影堂・阿弥陀堂を中心に43万坪ともいわれる広大な寺領を有し、「寺中広大無辺にして、莊嚴さながら仏国の如し」とうたわれました。その後、蓮如上人のご息男第9代実如上人、さらに第10代証如上人と続いて諸堂宇が整備され、寺内町は足の踏み場も無く、お念仏の声絶えることも無いと言われるほどのにぎわいをみせました。

ところが1532（天文元）年8月、日蓮宗徒、比叡山僧徒が、六角定頼の兵とともに本願寺を襲撃、やがて御堂に火が放たれ、ついに華麗を極めた山科本願寺もことごとく灰尽に帰し、本願寺は蓮如上人が造営されていた大坂・石山坊舎（現在の大坂城）に移り、53年間に亘って隆盛を極めた山科本願寺は消滅したのであります。

その後、全国の蓮如上人をお慕いするご門徒方々は、山科に残された蓮如上人御廟にお参りしても、管理を行うお寺もなければお念仏を弘める道場もないことに心を痛め、しばしばご本山に寺院造営を懇請しましたが、なかなか叶うことの無いまま、山科本願寺焼失から200年が経過しました。

いよいよ時熟し、1732（享保17）年第15代住如上人により北山別院の旧堂をご廟所の東側に移築、聖水山舞樂寺とされました。さらに第17代法如上人きょうあいの時代になって、あまりにこの御堂が狭隘であるため、17年の歳月を費やして1772（安永元）年3月現在の本堂が建立され、続いて1782（天明元）年、

蓮如上人300回忌にあたって、鐘楼・太鼓楼・茶所等を増築されました。

1998（平成10）年、蓮如上人500回遠忌をお迎えする記念事業として、老朽化した本堂・御殿の修復、書院の新築が行われました。また2011（平成23）年親鸞聖人750回大遠忌をお迎えする記念事業として、旧茶所跡に多目的会館が新築されました。

また、中宗堂は1823（文政8）年蓮如堂として本堂の南に建立されました。中宗堂にご安置されている蓮如上人像は、上人54歳の御自作として、永くご本山に伝えられてきました。1732（享保17）年舞楽寺仏殿落慶の後、この御像を本山よりお移しして報恩講が修行され、これを前例として、山科別院中宗会・報恩講には御像をお迎えするのが例となっていました。1884（明治17）年4月第21代明如上人により、山科別院中宗堂を本山中宗堂代と定められ、これよりこの御像は永く山科の地に安置されることとなりました。

【本願寺山科別院（東御坊）の由来】

このお寺の正式名称は「東本願寺山科別院長福寺」と言いますが、地元では「東別院」「東御坊」などと呼ばれています。真宗大谷派に属し、東本願寺の山科別院です。享保17年（1732）、本山17世真如上人が、当時東本願寺の境内にあった長福寺を、現在地に移築し創建したもので、本尊は阿弥陀如来立像です。

慶長7年（1602）本願寺が、東西に分かれます。その後、享保17年（1732）、17世・真如の命により光敬が、東本願寺の境内にあった長福寺を現在地に移築して、（東御坊が）現在の場所に創建されました。また、同年、北山御坊の旧堂を山科に移して西本願寺の御坊（西御坊）も現在地に創建されています。

元文3年（1738）、長福寺（東御坊）で落慶供養が行われています。また天明8年（1788）、東本願寺が天明の大火で被災した際には、親鸞の御真影の避難地になりましたし、元治元年（1864）、東本願寺が「禁門の変」で被災した際にも、親鸞の御真影の避難地になっています。明治14年（1881）、宗教団体法の規定により、宗派名が「真宗大谷派」と定まり（法主は、第21世 嚴如）、この明治期（1868～1912）に「山科別院長福寺」と寺号を改めています。

毎年3月24・25日に蓮如上人御正當法要と、9月24・25日に親鸞聖人報恩講が厳修されます。山科別院より南西へ徒歩3分で、「真宗再興の祖」と仰がれる本願寺八世蓮如上人の御廟所があります。

年代	西暦	関連事項
慶長 7年	1602	本願寺が、東西に分かれる。
享保17年	1732	○この年、17世・真如の命により光敬が、東本願寺の境内にあった長福寺を現在地に移築して創建された（東御坊）。また、北山御坊の旧堂を山科に移して西本願寺の御坊（西御坊）として再興する。
元文 3年	1738	長福寺（東御坊）、落慶供養になる。
天明 8年	1788	東本願寺が天明の大火で被災した際には、親鸞の御真影の避難地になる。
元治 元年	1864	東本願寺が禁門の変で被災した際には、親鸞の御真影の避難地になる。
明治14年	1881	宗教団体法の規定により、宗派名が「真宗大谷派」と定まる。（法主は、第21世 嚴如）
明治期	1868～ 1912	山科別院長福寺と寺号を改める。

●その他の関連資料（略）